

# 「地球人講座 in 三瓶山」を開催

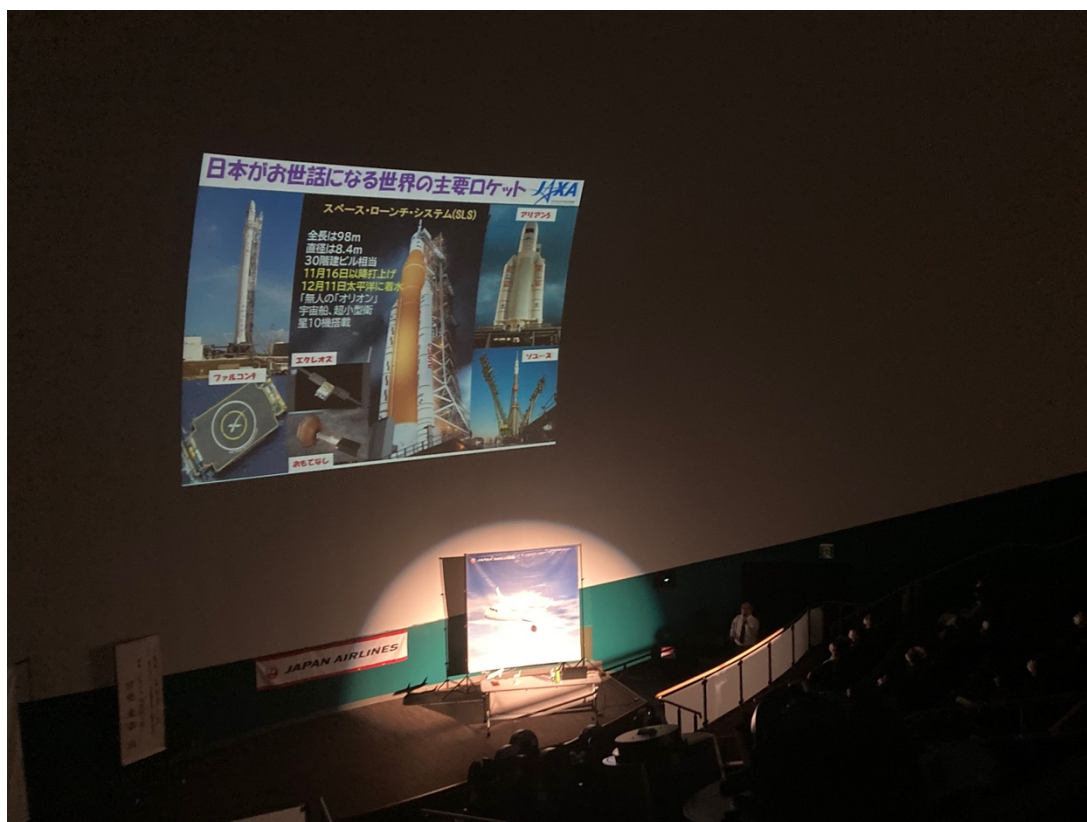
2022年 11月 19日

【 JAXA 特任担当役 宮里 光憲 氏 講演 】

(公財)JAL財団では2003年度より、地球規模で考え、行動できる人財の育成を目的として、第一線で活躍する講師をお招きし、海外・国内で『地球人講座』を開催しています。

今回は、JAXA 特任担当役 宮里 光憲 氏 を「島根県立自然館サヒメル」にお招きし、「生活に役立っている宇宙技術と宇宙開発最前線」をテーマに、同館プラネタリウム ビジュアルドームにて講演を開催しました。当日は島根県内から応募のあった小中学生・保護者、約40名の皆さまが参加されました。

宮里講師は、ロケットを追尾し監視・計測する国内外の設備の開発、またロケットに使用されている固体推進薬の研究に携わり、ロケットを追尾する組織の責任者として多数の打ち上げに従事していらっしゃいました。そのお立場から宇宙飛行士の活動や生活、技術開発について、とても興味深いお話を多くの映像や動画で紹介していただいた、あっという間の2時間でした。



地球上の生命は、いったいどこから来たの？宇宙人はいるの？という正解がまだみつかっていないお話から、人工衛星とドローンや農耕器具の遠隔操作を組み合わせて、2～3cmの誤差で、無人の状態で種まきや収穫が、畑では既に行われているなど、最新の宇宙技術が日常の生活に生かされているお話を伺いました。

講演終盤では、参加者から事前に寄せられた、月や火星に住めるかどうか、宇宙飛行士のお仕事についてなどの質問にスライドを使って丁寧に回答してくださり、お子さまだけでなく、保護者の方々も興味を持って聞き入っていました。最後に宇宙の膨張速度の質問には、自然館サヒメル天文事業室竹内室長がプラネタリウムに宇宙を投影して説明を行ってくださり、一瞬宇宙旅行を経験しているようでした。

また、講演後には、参加者が実際に使われている宇宙食やロケットに搭載された衛星のカバーの一部などを手に取りながら宮里講師から直接説明を受けることが出来る交流コーナーを設けました。この場では、JAXAに入るのには今後どのような学校に進学すべきかなどの質問が寄せられ、宮里講師からは、「JAXAの仕事は色々な技術を集結しないと目的を達成することができません。お父さん、お母さんに沢山の体験をさせてもらい、その中から好きなものを見つけ、これだけは誰にも負けませんというものを身に付けて下さい。今後、月に人が住み、観光客が旅行で行けるようになるには土木や建築が得意な人がホテルや病院やお店などを造る必要があります。これらが完成すると月を案内する人やお土産を販売する人、コックさんや床屋さんも必要になってくるかもしれません。好きなものが見つかれば、お母さんが応援団長として、お父さんが副団長として応援してあげてください。」との温かいアドバイスがありました。



第二部では、島根県立自然館サヒメル天文事業室竹内室長による隕石の標本や太陽系模型の説明を天文展示にて受け、また、屋根全体がスライドする集団天体観察室で、クーデ式 20cm 屈折望遠鏡を使って、太陽の黒点を紙に投影して見るなど普段は出来ない体験をする機会がありました。



子どもたちも保護者の方々も宇宙開発の最新技術の話に触れ、宇宙は既に非常に身近なものであると実感し、次世代を担う「地球人」になるべく夢を描いてくださったようでした。

以上